

The Dawn of Classical Music Period

“古典派音楽の父”という愛称で親しまれるフランツ・ヨーゼフ・ハイドン。

交響曲や弦楽四重奏曲だけでなく、オペラや教会音楽など様々なジャンルの音楽を世に送り出し、その数は1000にも上ると言われています。

ハイドンは、オーストリアにあるローラウというのどかな町で生まれました。

幼少期から音楽の才能の片鱗をのぞかせており、6歳の時に家を離れ外の世界へと踏み出します。その後、聖歌隊のソリストや宮廷楽団の楽長を務め、オックスフォード大学から名誉音楽博士号を授与されるまでに至りました。

彼の輝かしい人生の傍らには常に音楽が鳴り響いていたのです。

今回のレコード鑑賞会では、彼の遺した数多くの作品の中から厳選した不朽の音楽 - Zeitlose Musik - をお届けします。

秋の午後、心安らぐひとときをお過ごしください。

ウィーン古典派 Viennese Classical school

18世紀後半から19世紀前半にわたって、音楽の都・ウィーンを中心に創作活動を行った古典主義の作曲家の総称。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンらがその代表とされる。この言葉が一般化したのは、当時の人々が彼らの様式が自分たちの時代の基盤であると悟り尊敬され始めた1900年前後のことであった。

マリア・テレジア Maria Theresa

長きにわたり栄華を誇ったハプスブルク家唯一の女帝、と呼ばれるが正式には皇帝であったことはない。しかし近代化促進、知識豊かな国民の育成など国を内側から支え、国母として慕われた。また、庶民的な感覚を持ち、音楽を愛した人だとも伝えられる。

疾風怒濤 Sturm und Drang

ハイドンの1760年代後半から1770年代初頭にかけての作風のこと。この期間に制作された作品は、悲劇的な雰囲気を持ち、強い感情を表現しているものが多い。そのため、同時期ドイツに興った感情や個性を尊重する革新的文学運動になぞらえて「シュトゥルム・ウント・ドラング」とも呼ばれる。

フランス革命 French Revolution

貧困に苦しむ民衆が贅沢を続ける貴族に怒り、1789年に勃発した市民革命。これにより王制は崩れ、民衆の時代が幕を開けた。それに伴い、権力者だけでなく一般市民も音楽を楽しめるようになったため、“市民のための音楽”が発展していくこととなる。



埼玉県立熊谷図書館

〒360-0014 埼玉県熊谷市箱田5丁目6番1号

TEL : 048-523-6291(代)

URL : <https://www.lib.pref.saitama.jp/>

※13時30分に開場します。定員15名、先着順、入場は無料です。

※駐車場は台数に限りがございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

[お問い合わせ：視聴覚資料・図書館振興担当 048-523-6291]

* 埼玉県立熊谷図書館アクセス地図 *

